

優秀賞（神奈川県福祉子どもみらい局長賞）

憧れ

横浜共立学園中学校 3年 いのうえ めぐみ 井上 恵



海外といえどどのようなイメージが湧くだろうか。私は城や宮殿があり、人々は皆陽気で、おいしい料理がたくさんあるイメージだ。日本にはない文化を見たいという思いから、私は海外に憧れている。また、誰もが一度はそのような経験があるだろう。しかし、異国への憧れは今に始まったことではない。例えば戦国時代、織田信長は西洋の技術や文化を取り入れた。明治維新では、現在の日本の礎を築いた人々が欧米に渡り、学問や法制度を学び、国の発展へと繋げていった。このことから、いつの時代も日本人は海外に憧れを抱いていたことが分かる。

私は今年の夏休み、海外への憧れが一段と高まった。なぜなら、イギリス人の友人に会い、イギリスの街並みや学校生活について聞く機会があったからだ。彼女はロンドンから一番近い島であるワイト島に住んでおり、街はレンガ造りの家が建ち並び、彼女の家は築百年以上の歴史があるそうだ。また、ヴィクトリア女王が愛した離宮やビーチなどの観光スポットも多いらしい。学校では様々な楽器を演奏する機会があり、部活動は掛け持ちでできるため、多くの分野に挑戦できる。日本にはない街並みや個性が重視される教育、学校での過ごし方が私にはとても魅力的に聞こえた。そのため、私が彼女に「イギリスいいな。私もイギリスに住みたい。」と言うと、彼女は「イギリスはつまらないよ。」と衝撃的な一言を返してきた。理由を聞くと、ワイト島には日本のようにショッピングできる場所がないことや、イギリスは年中涼しい気候のため、収穫できる食材が少なく、海があっても入れないなど、娯楽が少ないからだそう。逆に彼女は、日本は賑やかで、料理がおいしく、アニメや漫画があるので日本に住みたいと言ってくれた。近年、イギリスでは日本の文化がブームになっており、日本のファッションブランドがあったり、コスプレイベントや日本のアニメソングの演奏会が行われたりしているそうだ。

私はイギリスでも日本文化が流行していることを知り、嬉しくなったと同時に、自分は他国に憧れてばかりで自国の文化や伝統を大切にできていなかったと思った。

私は、勝手に外国人はお寺などの日本の伝統文化が好きなイメージを持っている。

先日、鎌倉の駅から離れたお寺に行った際、日本人よ

り外国人の方が多く、その方々のほとんどが、茶屋で抹茶を飲みながら日本庭園を眺めていた。日本人より日本の風情を感じているように見受けられた。

ここまではイメージ通りだが、日本人からすると意外な理由で観光客が集まる場所がある。それは渋谷だ。外国人の多くは、一つの場所に人が密集する状況がめずらしいため、見てみたいという理由で渋谷を訪れるそうだ。外国人向けの日本のガイドブックには、観光名所として、渋谷のスクランブル交差点を見下ろせるカフェが紹介されている。日本人は渋谷に行く時、人の多さを見る目的では行かないだろう。むしろ、私は人混みを好まない。日本人からすると日常の風景でも、外国人にとっては刺激的なのかもしれない。視点が違うと同じものに対してここまで異なる感情を持つことに驚いた。では次に逆パターンを考えてみよう。先ほど記したように、イギリスにはレンガ造りの建物が建ち並んでいるが、現地の人には日常的な風景だ。しかし、レンガ造りの建物を見る機会の少ない日本人にとって、イギリスの街並みは芸術的な美しさを感じられる。

これらのことから、日本人、外国人に関わらず、自分の身の回りにないものに憧れることがある。しかし、本当にそれで良いのか。「いただきます」や「ごちそうさま」のような日常の風景に溶け込んでしまっている自国の文化も大切に守っていく必要があると思う。グローバル化が進む現在、昔に比べ、伝統文化への関心が低下し、他国の文化が多く取り入れられているが、まずは自国の良さを見つけてみると良いだろう。全ての国の人々が全ての国に憧れ、自国も海外の文化と同じにしようとすれば、国ごとの特色がなくなり、憧れが消え、つまらない世界になってしまう。

身近なものの重要性に気づくことは難しい。人はつい、無い物ねだりをしてしまう。しかし、海外の人も評価して下さる日本文化を私たちは知り、後世へ伝えていく義務があると私は考える。長い年月をかけて成立した文化はその国の一番の個性なのだから。